

まつした しんや
松下 真也経営学部 准教授
博士(商学)／一橋大学大学院商学研究科ホームページ URL
なし

主な研究業績

- 松下真也. 2019. 「複式簿記と競争優位性の理論的検討」『産業経理』78 (4) : 170-178.
- 松下真也・佐々木隆志・万代勝信. 2018. 「マレーシアにおける会計・監査の制度・基準の調査分析」『ディスクロージャー & IR』6 : 11-24.
- 松下真也. 2017. 「複式簿記固有の意義の検討:Waymire 学説に依拠して」『會計』192 (3) : 308-319.
- 松下真也・万代勝信・佐々木隆志. 2017. 「インドネシアにおける会計・監査の制度・基準の調査分析」『ディスクロージャー & IR』1 : 155-173.
- 松下真也. 2016. 「原価主義会計とS & L危機の検討」『會計』190 (2) : 209-221.
- 松下真也. 2016. 「棚卸資産の低価基準はなぜ強制されるのか? : 純粋な原価主義会計理論に依拠して」『産業経理』76 (2) : 126-134.
- 松下真也. 2014. 「Edwards and Bell 学説における貨幣的損益と Bedford 学説における成果的損益」『財務会計研究』8 : 1-22.
- 松下真也. 2014. 「企業観と資産評価論の検討: Paton and Littleton 学説と Sterling 学説に依拠して」『會計』185 (4) : 540-553.

研究テーマ Research theme

複式簿記情報と競争優位性の研究
- OBA を通じて -

概要 Overview

一般に、複式簿記の機能には、財務諸表の作成と経営管理に有用な情報の提供があるといわれます。わが国では、これらの内、前者の機能に焦点を当てた研究が財務会計の領域において行われてきました。しかし、後者の機能に焦点を当てた研究については、わが国の簿記研究のみならず、管理会計研究においても、ほとんど行われていません。また、海外においても、経営者の会計情報作成の動機が、企業の競争優位性の構築にあることを明らかにした研究が存在するだけで、帳簿が提供する会計情報と実際の企業における競争優位性の構築との関係を分析する研究は、ほとんど存在していません。そこで、私は、経営管理に有用な情報を提供するという複式簿記の機能について、とりわけ、製品原価等の会計情報を企業間で共有する実務であるオープン・ブック・アカウンティング (Open Book Accounting : OBA) に着目し、複式簿記に基づいて作成された帳簿が、いかに企業の競争優位性の構築に貢献するか、また、貢献するのであれば、どの程度の貢献があるかを明らかにすることを研究課題としています。

私の研究は、これまで看過されてきた複式簿記が経営管理に有用な情報を提供するという機能が、現実の企業において認められるか否かについて、実際の企業データを用いた分析を行うという特徴を有しています。また、私の研究で特に着目している OBA (原価情報等の会計情報を企業間で共有する実務) は、これまでタブー視される傾向にあったり、原価削減で系列関係の会社に導入されたため中小企業にとってネガティブなイメージがあったりしました。そのような中、欧米企業には、OBA を導入することで、売上高を増大させたり、サプライチェーン経営に役立てたりする企業が出現してきました。私は、この研究を通じて、OBA が企業間取引を効率化させる機能に着目し、OBA が企業間取引を効率化させ、取引当事者およびサプライチェーン全体の競争優位性を高めるか否かを明らかにしたいと考えています。

応用分野 Application areas

- ・会計システムと競争優位性の構築の関係
- ・会計情報を用いたサプライチェーン・マネジメント

共同研究等へのニーズ Need for joint research

原価情報等の会計情報を企業間で共有する実務としてのオープン・ブック・アカウンティング (OBA) を既に導入している企業・組織、もしくは導入したいとお考えの企業・組織との間で、企業データの提供やデータの解析結果および OBA や会計システムに関する知見の提供を通じた共同研究を行いたいと考えております。